

| 原 | 子 | 力 | 災 | 害 | を |

# ShiruManabu

シル・マナブ

2021年度版 | 最 | 終 | 号 |

研修期間 : 2021.7/3 - 11/23

福島を飛び出した。  
海も渡った。  
復興の課題を  
見つめた5年間。

## 学びの旅が私を変えた 答えのない未来に挑む



### [ 座談会 ] 遠い未来に私たちが向き合う

- 福島の課題を知る学ぶ
- 寿都町を歩く
- 反対の声とどう向き合う

◎ 特集

～福島に思いを寄せて～

遠く離れても古里は心のそばに



|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| P3～P4   | 福島の問題を知る学ぶ① 東京電力福島第1原発の今とこれから  |
| P5～P6   | 福島の問題を知る学ぶ② 増え続ける処理水           |
| P7～P8   | 福島の問題を知る学ぶ③ 東京電力福島第2原発の廃炉      |
| P9      | 福島の問題を知る学ぶ④ 核のごみの行方            |
| P10     | 寿都町を歩く                         |
| P11～12  | 反対の声とどう向き合う                    |
| P13～14  | 福島の問題を知る学ぶ⑤ 核燃料サイクル            |
| P15～16  | 廃炉の問題を学んだ 未来にどう生かすか            |
| P17～P18 | 自分自身で確かめて 自分事として考える            |
| P19～P20 | 【特集】～福島に思いを寄せて～ 遠く離れても古里は心のそばに |

座 談 会

|         |                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------|
| P21～P30 | ● 遠い未来に私たちが向き合う<br>「ふくしま浜通り HIGH SCHOOL ACADEMY」歴代参加者座談会 |
| P31～P32 | 原子力災害を知って学んだ5年間の軌跡                                       |
| P33     | 私たちが未来を描くためのキーワード                                        |
| P34     | 編集後記 未来への可能性を確かに感じた5年間                                   |



あ の 日 、 何 が 起 き た の か

思い出そうと努めても、当時はまだ幼く「怖かった」という漠然とした記憶しか浮かんでこない。

東日本大震災、東京電力福島第1原発事故から11年が経つ。今、私たちは成長し高校生になった。この先、福島で暮らし続けるのか、それとも離れるのかはまだ分からない。けれど、どんな選択をしても、思い出にあふれる古里の未来は幸せであってほしいと願う。

だから、学んだ。11年前の災害と復興の現状、これから歩む道の先に横たわる課題について。そして、考えた。自分たちにできることは何か。次の時代の主役は私たちだ。同世代のあなたと学びの成果を共有したい。

● 参加者  
リスト

● 大学生

清信 早希

(東北福祉大学)

伊藤 結

(宮城教育大学)

酒井 郁澄

(秋田大学)

太田 颯矢

(東北学院大学)

● 高校生

熊野谷 夏未

(新地高校)

片山 桃花

(新地高校)

佐藤 虹羽

(白河旭高校)

町田 暖稀

(磐城桜が丘高校)

渡辺 空

(ふたば未来学園高校)

吉田 優美

(ふたば未来学園高校)

吉田 百華

(ふたば未来学園高校)

齋藤 康洋

(ふたば未来学園高校)

佐川 生華

(ふたば未来学園高校)

国井 太陽

(ふたば未来学園高校)

大山 未来

(ふたば未来学園高校)

●アドバイザー 奥本 英樹 ●コーディネーター 日置 友智 ●コーディネーター 湯澤 魁



## 福島の問題を知る学ぶ ①

# 東京電力福島第1原発の今とこれから

私たちの生活を一変させた東京電力福島第1原発事故。2011年3月に何が起こったのか。そして、事故から10年以上が過ぎた現状と、今後の廃炉作業はどう進むのか。国と東電は2051年までに廃炉を終えるという目標を掲げるが、原発構内には放射線量が高い場所も多く、現場ではさまざまな挑戦が続く。



● 事故当時の福島第1原子力発電所3号機原子炉建屋



**震災で福島第1原発はどうなったの？**

2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする東日本大震災が起き、福



**第1原発の状況は？**

ち入りが原則として制限されている地域は東京23区の半分以上に及んでいるんだ。

事故直後、原発の敷地のほとんどでは顔全体を覆うマスクや防護服を身に付けなくてはならなかったが、今では私服でも移動できるようになった。これは、地面にモルタルを吹き付ける「フエーシング」などの放射線対策が進んだことが大きい。水素爆発が起きた原子炉建屋から約100メートルの場所でも防護服を着る必要はないほど放射線量は下がった。



**では、廃炉は進んでいると考えていいの？**

原発の解体を目指す廃炉に向け、国や東電、民間企業による挑戦が続いている。ただ、最難関とされるのが原子炉の中にある、溶け落ちた核燃料（デブリ）の取り出し作業だ。

人が近づけば確実に死んでしまうほどの極めて高い放射線を出すため、長時間作業するのは難しく、デブリの場所を調査するための電子機器もトラブルを起こすことがあるんだ。2号機ではデブリとみられる物体をカメラで確認することができたが、取り出すための技術の開発は確立されていない。



● 水素爆発を起こした3号機には放射性物質の飛散を防ぐドーム型屋根力バーが設置されている。廃炉に向けさまざまな挑戦が続く



**2051年まであと30年。本当に廃炉は終わるの？**

国と東電は事故があった2011年3月を起点に廃炉完了の時期を「30〜40年後」とする目標を変えていない。ただ、住民からは「現実的ではない」との批判も上がっている。

東電はデブリの取り出しについて、目標としていた2021年内の開始を断念した経緯がある。そもそも、事故を起こしていない原発でも廃炉までの期間は30年程度かかるとされる。道のりは長く険しいと言わざるを得ない。



**第1原発がどんな姿になれば廃炉を終えたとと言えるの？**

結論から言えば、国、東電ともに明確なビジョンは持っていない。2051年と



● 現在の3号機原子炉建屋上部（2021年12月）

並ぶ世界最大級の原子力災害として広く認知された。



**原発の事故の影響と現状は。**

原発事故で漏れ出た放射性物質が出す放射線で住民が被曝（ひばく）しないよう、政府は避難指示を出し、最も多い時は16万人が避難した。避難指示が出たのは浜通りなどの11市町村で、それ以外でも自治体の判断で避難を促した地域もある。

事故から10年と9カ月が過ぎた今（2021年12月現在）は、地面の土をけずり取ったり建物を洗ったりする「除染（じよせん）」や、時間の経過に伴い放射線量が自然に下がることで、避難指示の区域は少しずつ小さくなり、避難者は記録上は3万人台までになった。それでも、人の立

いう廃炉達成の目標を掲げてはいるけれど、デブリの取り出し方法の確立など不確定な要素が多いからだ。

住民からは「建物を全て取り払って更地にしてほしい」との要望が上がる。それは対照的に「建物を残して教訓を伝えるための負の遺産とすべき」などの意見もあるんだ。

国、東電は「今後、議論を重ねていく必要がある」としている。これから廃炉と長く向き合っていく現在の高校生を含め若い世代が福島第1原発の廃炉の在り方や跡地利用を考え、将来像を描いていく主役となる。



● 福島第1構内の殆どのエリアでは防護服を着用しなくても歩けるようになった





● 福島第1 構内の高台から1～4号機を間近で見学

福島第1原発では放出の際、さらに厳しい約40分の1の1500ベクレル未満まで海水で薄める。国と東電は2023年春の海洋放出開始を目指している。海底トンネルを掘って沖合約1キロから流す計画だ。なぜ海底トンネルを使うのかというと、原発構内の近くで放出すると、濃度を薄めるために海水を取り込む際、処理水を再び構内にくみ入れてしまい、放出前の水と混ざる恐れがあるからだ。

**放出の際の安全はどう確認するの？**

タンクには125万トン、水に含まれるトリチウムは800兆ベクレル近くに上り、何十年もかけて海に流すことになる。国や東電は、国際原子力機関（IAEA）という第三者機関に放出前の処理水を測定してもらったり、周辺海域の濃度に異常がないかどうかを厳しく監視する体制をつくるとしている。

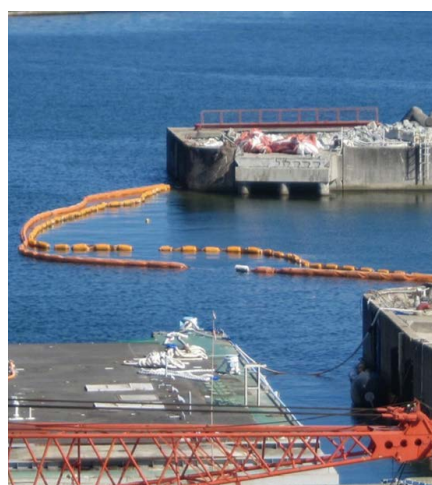


● ALPS 処理水の貯蔵タンクを見学

**なぜ反対の声があるの？**

原発事故後、福島県産の海産物や農産物は根拠のない噂により安く買いたたかれるという「風評被害」に苦しめられてきた。海洋放出の手法が科学的に安全だとしても、福島県の漁業関係者は「安全だと知らない消費者にまた避けられてしまう」として、新たな風評につながることを心配している。

また、政府は2015年に漁業関係者に対し、処理水について「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」という約束をしていた。しかし、漁業関係者の理解を得られないまま海洋放出を決めたことで溝が深まってしまった。放出前も放出した後、政府は広く国民の理解を得るための努力を続けることが必要だ。



● シルトフェンス：1号機～4号機取水口

## 福島の問題を知る学ぶ ②

# 増え続ける処理水

東京電力福島第1原発では放射性物質トリチウムを含む処理水が日々、増え続けている。政府は2021年4月に処理水を処分するため海に流す「海洋放出」の方針を決めた。ただ、漁業関係者の反発は今も強く、広く理解を得られたとは言い難い。海洋放出に至った背景やその仕組み、今後の課題を探る。



● 11月14日に訪問した福島第1の化学分析棟と、手に取ることができるALPS 処理水のサンプルボトル

**処理水って何？**

地下水や雨水などが原発の建物内に流れ込んで床などに溜まった放射性物質に触れ

たり、燃料デブリを冷やした水が汚染水となる。汚染水をALPS（アルプス／正式名称・多核種除去設備）という浄化設備で処理し、トリチウム以外の放射性物質をほぼ取り除いたものが処理水と呼ばれる。トリチウムは普通の水と混ざっているため分離が難しく、ALPSで取り除くことができない。ただ、トリチウムが出す放射線は弱く、紙一枚で遮ることができると言われている。半減期は約12年。

**なぜ海に流さなければならぬの？**

福島第1原発の敷地内では増え続ける処理水を保管するタンクを増設し続けており、既に1000基を超えた。このままでは近い将来、タンクを造っても置く場所がなくなる。廃炉を進めるための作業ス



● 増設 ALPS 設備（入口から見学）

ペースも確保できなくなる恐れがある。このため、国は原発事故前も海に流していた実績や、海に出た場合も放射性物質濃度などを監視しやすいとして海洋放出の方針を決めた。

**どうやって海に流すの？**

国が定める放出基準は1リットル当たり6万ベクレル。国によると、仮にこの水を毎日約2リットル飲み続けても、日本で1年間に自然界から受ける放射線による被曝量より低いので「影響はない」としている。





● 福島第2原子力発電所1号炉廃炉作業における除染作業（2021年7月6日）

ている。熱や有害な放射線を出しているため、現在は冷やすために水を張ったプールに入れて保管している。今後は核燃料を金属製の容器に入れて空気で冷やす計画で、プールに入れておくよりも停電や災害発生が起きた際に安全とされている。

一方、楢葉町や富岡町は、住民の安全と安心のため核燃料を福島県外に運び出すよう求めている。東電も廃炉を終えるまでには県外に運び出すと約束しているが、今のところ国内に福島第2原発の核燃料を受け入れる施設はない。地元の住民からは「ずっと核燃料が置かれ続けるのではないか」と心配する声も上がっている。

**廃炉にはデメリットしかないの？**

廃炉を地域経済の再生や発展につなげようとする動きが出ている。

見方を変えれば、廃炉は40年以上にわたる4千億円以上が投じられる巨大な産業とも言える。楢葉町と富岡町は地元の企業が廃炉事業に積極的に参加できるよう求めている。東電も多くの企業に廃炉事業に関わってもらえるような環境整備を進めている。ただ、建物の解体や、がれきなどの撤去に関する技術がある建設関連業だけしか参加できないのでは？との指摘もある。廃炉に必要な資材の調達や復興作業員の飲食

また、廃炉は長く続くため、将来を見据えて人材をどう確保するのかや、技術とノウハウを伝えるから廃炉を担う次の世代を育てるという視点も大切になってくる。



● 震災直後の福島第2での仮設電源ケーブル敷設（2011年3月13日）

**廃炉は本当に安全に進むのだろうか？**

廃炉作業に入るのの前に、第2原発では核燃料を扱うため立ち入りが制限される「防護区域」と呼ばれるエリアに通じる扉の管理が不十分だという指摘があった。県民の不信感を募らせる事態が再び起きたと言える。東電は「安全で着実に廃炉を進める」と繰り返すが、こうした事態が起きれば信頼回復はおぼつかないだろう。東電は、廃炉作業の透明性の確保に努め、そして、住民にとって分かりやすい情報公開を徹底しなければならぬ。

そして、県と楢葉町や富岡町といった福島第2原発が立地する自治体もこれまでに以上に監視体制を強化する必要もある。



● 現在の福島第2原子力発電所（2021年12月に撮影）

## 福島の問題を知る学ぶ ③

# 東京電力福島第2原発の廃炉

福島県楢葉町と富岡町の2つの町にまたがって立地する東京電力福島第2原発。福島第1原発事故が起きてから10年以上が過ぎた2021年6月、全4基の廃炉作業が始まった。廃炉に至るまでの過程と今後の課題を見つめる。



## 福島第2原発は震災後にどうなったの？



● 福島第2原子力発電所の全景（震災前）

1982～87年に順次営業運転を開始した原発で、東日本大震災の発生当時は全4基が稼働していた。事故は起きていないが、激しい揺れと津波による被害で一時は原子炉を冷やせなくなり危険な状態に陥った。東京電力は2019年7月に全4基を今後は運転せずに解体する「廃炉」とすることを正式に決定し、国の機関の許可

を得て翌2021年6月に廃炉作業を始めた。

## なぜ廃炉が決まったの？

多くの市町村の住民が避難を余儀なくされた福島第1原発事故を受け、福島第2原発についても県民の厳しい目が向けられてきた。

事故後も長く福島第2原発の方向性が明確に示されない状況が続く中、人口が事故前の水準まで戻っていない楢葉町と富岡町は「第2原発を廃炉にしなければ住民が不安を抱き、戻ってこないかもしれない。復興の妨げになる」として、早期の廃炉決定を求め続けてきた経緯がある。県や県議会も「廃炉は県民の総意」として廃炉にするべきだと訴えてきた。

一方、東電は国のエネルギー政策の動向などを理由に廃炉にするかどうかの判断を

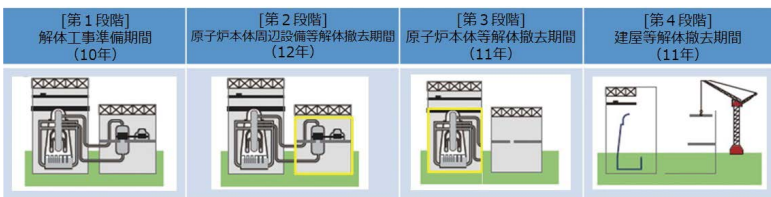
先送りしてきたが、廃炉にする方針を地元の自治体に伝えた際には「これ以上、曖昧な状況が続けるのは復興の足かせになる」と説明した。

## 廃炉はどう進むのか？

全4基の廃炉までは40年を超す長い時間が必要とされている。廃炉工程は4段階に分かれており、最初の10年で原子炉建屋などの汚染調査や除染を行う。第2段階（12年）では発電機タービンなど周辺設備、第3段階（11年）で原子炉本体など、第4段階（11年）で原子炉建屋などを、それぞれ撤去するという手順で進める計画だ。費用は約4千億円以上かかり、今後はさらに増えるかもしれない。

## 廃炉の課題は？

第2原発の敷地内には「使用済燃料」と呼ばれる使い終えた核燃料が約1万トン保管され



● 福島第2（全4基）廃止措置の主な手順



## 福島の問題を知る学ぶ④

# 核のごみの行方

原子力発電所から出る「核のごみ」をどこで最終処分するのか。戦後の高度経済成長期から日本の電力を支えるために国が進めてきた原子力政策で積み残されたままの重い課題だ。そんな中、2020年10月に北海道寿都町（すつちょう）と神恵内村（かもえないむら）が最終処分場を選ぶための調査を受け入れた。調査はなぜ必要で、今後どのように進むのか。福島県の高校生が核のごみ問題に詳しく迫った。

### 核のごみとは？

原発で使った核燃料からウランやプルトニウムなどもう一度利用できる物質を取り出し、残った液体をガラスと混ぜて固め金属の容器に流し込んだもの。正式には「高レベル放射性廃棄物」と呼ぶ。人が近寄ると体に極めて深刻な影響を及ぼす非常に強い放射線を長い間出す危険性がある。日本は長く原発を利用してきたため、今後多くの核のごみが出ると考えられている。

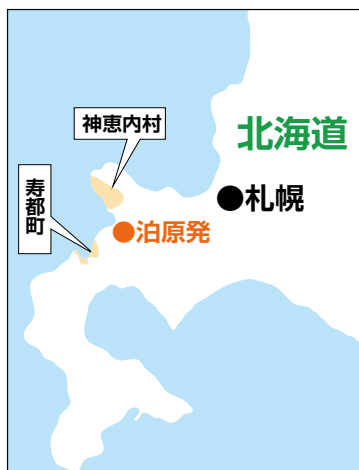
### 最終処分って何？

核のごみを最終的に捨てる方法だ。国は核のごみを地下300メートルより深い岩盤に閉じこめる技術の研究を進めている。「地層処分」と呼ばれ、数万年以上にわたり人間の生活環境から遠ざける計画だ。

核のごみの最終処分を巡っては、これまで「ロケットで宇宙に打ち上げる」「南極の氷の下に埋める」など、さまざまな方法が検討されてきたが、処分の確実性や「自国で処分するべき」などの意見が出た国際的な話し合いの結果、地層処分が最適だと考えられている。

### 今後の調査はどう進む？

最終処分場を決めるためには、候補地が本当に安全なのかどうかを確かめるために



## 段階的な調査

### 文献調査

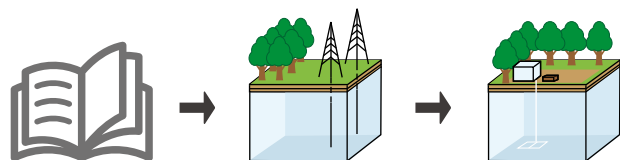
いろいろな文献やデータを使って調査

### 概要調査

ボーリングなどの調査

### 精密調査

地下に調査施設を作って調査



調査を3段階に分け、約20年の長い年月をかけて行う。

寿都町と神恵内村が受け入れたのは第1段階の文献調査と呼ばれる、資料を使って活断層の分布などを調べる。第2段階は概要調査と言い、実際に穴を掘って地質や岩盤を調査する。その後、大詰めとなる第3段階の精密調査へ進む。

文献調査を受け入れると、国から最大20億円のお金がもらえる。寿都町と神恵内村では2020年11月から文献調査が始まり、2022年中に終わる見通しだ。



## 寿都町を歩く

寿都町は、寿都湾に面した人口約2800人の静かな港町で、函館市と小樽市のほぼ中央に位置する。かつてはニシン漁で栄え、現在も鯨御殿など歴史的な建造物が町並みに残る。伝統の水産業を守りながら、最近では北海道で唯一のバジル生産に取り組むなど地域振興に向け新たな分野を開拓している。エネルギー分野でも住民を悩ませていた風の強さを逆手にとって風力発電の導入を進めるなど、地域資源を生かしたまちづくりを進めている。



● 弓状の海岸線が美しい寿都湾。寿都町の住民に豊かな自然の恩恵をもたらしてきた



● 海岸沿いのあちこちで風力発電設備が動いていた。間近で見ると、設備の巨大な姿に圧倒された



● ニシン漁で栄えた寿都町を象徴する鯨御殿。かつては網元の居宅と漁業施設を兼ねた建物で、現在は改修され美味しいソバを味わえる飲食店となっている



# 反対の声とどう向き合う

核のごみは日本のどこかでいつかは最終処分をしなければならない。身近にある東京電力福島第1、福島第2両原発にも強い放射能を持つ使用済み核燃料があり、私たちにとっても他人事ではない問題だ。寿都町は最終処分場選定を巡る調査にどんな理由で応募したのか。現地を訪れ原子力政策の重要課題と向き合う片岡春雄町長と意見を交わした。

**Q** 文献調査が始まってから1年が経過しました。住民の反発がある中、どんな思いで文献調査の応募を決めたのでしょうか。

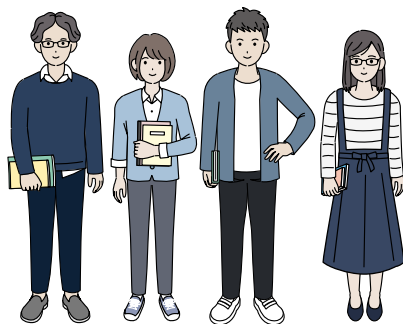
**A** 北海道や皆さんが暮らす福島県も含め、全国で半世紀以上も原発のエネルギーを利用してきました。それなのに、使用済み核燃料の処分問題については「知らない」とそっぽを向く訳にはいきません。問題を先送りし続ければ、困ってしまうのは



● 町長と意見を交わす高校生

皆さんのような若い世代です。文献調査を受け入れた時、『お金欲しさでは』との指摘もありました。寿都の若い世代は高校を卒業すると札幌市や東京に出て行ってしまうので、交付金を活用して働く場の創出に投資したいという考えはあります。この20年間で1200人も人口が減少したという切実な状況に直面しています。しかし、それ以上に核のごみ問題に一石を投じたいとの思いで、周囲から批判されることも覚悟の上で応募しました。

**Q** 10月に行われた町長選では、調査に反対する候補者を破って6回目の当選を果たしました。ただ、得票差は235票と僅差でした。結果をどう受け止めていますか。



## 高校生×寿都町長

**A** 投票した有権者の45%が私を支持しないという結果となり、重く受け止めています。私に投票してくれた55%の人も両手を挙げて調査の受け入れを歓迎しているという訳ではなく、不安は抱いています。まだ、この地域では最終処分の安全性などに関する知識が十分



● 「子どもの未来に核のごみはいらない」。町内には反対の意思を表明する看板があった



● 片岡春雄町長

ではないのが現状です。今後、調査推進派と反対派の双方の専門家から説明を受ける場も必要だと考えています。

**Q** 反対する住民にどう理解を求めているのでしょうか。

**A** これまで数回にわたり住民と対話する場を設けてきました。ただ単に『反対』と訴えて退席する人もいました。それでは対話は深まりません。反対ならば、どんな心配があるのか理由を挙げてもらうことが必要です。不安の解消につながるよう、専門家の見解を踏まえながら粘り強く議論を重ねていくしかありません。

**Q** 東京電力福島第1原発の放射性トリウムを含む処理水を巡っては、政府は漁業関係者の理解が得られないまま海洋放出の方針を決めたという批判も挙がっています。こうした意思決定の過程をどう見えていますか。

**A** 日本では、責任ある立場の人が痛みが伴う決断を先送りにしてしまう悪い習慣があるのだと思います。処理水もなぜ早急に処分する必要があるのかについて、もっと早くから漁師の理解を深める努力をするべきだったと思います。国は遅ればせながら説明を尽くしてほしいと願っています。また、福島のは検査で安全性が確認されていると聞いています。消費者もそうした科学的な根拠を踏まえ風評被害を助長させないよう協力しなければならないと考えています。



● 率直な疑問を投げ掛ける高校生

**Q** 来年も文献調査は終わります。第2段階の概要調査に向けた展望についてお聞かせください。

**A** 海外に目を向けると、スウェーデンやフィンランドでは核のごみの

最終処分場所が決まっています。どのように国民の理解を得てきたのかについて経緯を学ぶことも重要だと考えています。若者が残れるまちづくりと国の重要な課題に向き合うという両輪で丁寧に対話を重ねていきます。また、概要調査に進む前には住民投票を行い、意見を尊重します。



● 静かな港町は受け入れを巡る賛否で揺れている





● 核燃料サイクルの仕組みについて説明を受ける高校生（日本原燃のPRセンター内）

## 核燃料サイクルは進むの？

核燃料サイクルの実現に向けてはブルトニウムを取り出す「再処理工場」と、それを利用する「ブルサーマル」や「高速増殖炉」がうまく稼働することで実現できるとされる。では、現状はどのようなのか。

まず、プルサーマルについて。電力業界では、これまで4基のプルサーマルを実施しており、2030年度までに少なくとも12基で実施するとしている。



● 青森県六ヶ所村にある尾駈レイクタウン地区

福島の課題を知る学ぶ ⑤

# 核燃料サイクル

原子力発電所で使い終えた燃料を再利用し、再び原発の燃料に使う「核燃料サイクル政策」。天然資源の乏しい日本の電力を支える原子力政策の要とされるが、実現までの課題は多い。このまま推進が見直しか、それとも見直すべきなのか。政府内でも意見は割れている。



## 核燃料サイクルの仕組みを 教えて。

戦後間もない1950年代に政府が打ち出したエネルギー対策。政府と大手電力会社は原発で使った核燃料からプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜてMOX燃料として再利用する核燃料サイクルを進めてきた。

ちなみに、MOXとは「Mixed Oxide」の略称で、プルトニウムとウランを「混ぜた酸化物」を意味する。核燃料を使い続けることで、ウラン燃料の輸入に頼っている状況から脱却し、独自にエネルギー資源を確保する狙いがあった。脱炭素社会の実現が国際的な潮流となった今、MOX燃料を使い二酸化炭素を排出しない原発の利用促進を訴える人もいるんだ。



福島第1、第2両原発との関わりは。

核燃料サイクルの実現に向けた重要施設となる再処理工場は原則、運転中の原発などから出た“健全”な状態の燃料を受け入れる。つまり、廃炉が決まった福島第1、第2両原発の使用済み核燃料の行き先は



● 燃料棒の模型を間近にする高校生

決まっていな  
い。

特に事故が起きた福島第1原発の燃料について、原子力政策の関係者は「燃料棒の極めて小さな損傷などを調べ、健全

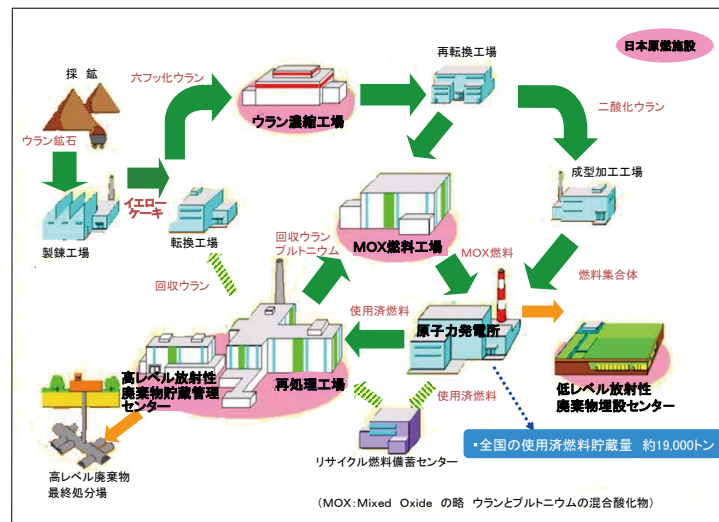


では核燃料サイクルはどうなるの？

だと証明して初めて行き先についての議論が始まる」としている。

「なるべく早く手じまいにするべきだ」。「維持するべきだ」。日本のエネルギー政策の行方に大きく関わる自民党総裁選（2021年9月）では核燃料サイクルの今後が論点の一つとなった。

結果、政府与党は原発の再稼働を進める流れに傾いたが、核燃料サイクルにはメリットもデメリットもある。原発事故後に加速した再生可能エネルギーや水素エネルギーのメリットやデメリットを踏まえ、みなさんも将来のエネルギー政策の在り方を考えてほしい。



## ● 原子力発電を支える原子燃料サイクルの図



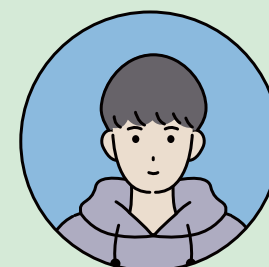
● 稼働に向け準備が進む再処理工場



# 廃炉の課題を学んだ 未来にどう生かすか

福島県浜通り高校生レポート

寿都町、六ヶ所村、福島第一を訪問して～



- ❖ 廃炉を知る上で分からない単語や原発事故の当時の様子など、学校では学べないことを学べた。
- ❖ 常に「疑問」を持つことが大切。そうすれば自身の考えも深まる。真偽を見極める力を養いたい。



前例のない廃炉と長く向き合うために、何事にもチャレンジする。積極的な姿勢で歩んでいきたい。



説明責任から逃げない。まだ人生経験の少ない若者だけど、真剣に向き合ってほしい。

- ❖ 新しい目線から物事を考える。若者だからこそ出来ることがある。
- ❖ 物事を俯瞰的に見る。全体を見渡せば、考えは小さくまとまらず、復興の力になるアイデアが生まれるかもしれない。

## 講義と視察で学んだこと



年代別に分かりやすい説明を。廃炉に関する説明や資料は、将来を担う子どもたちにとって、まだまだ分かりづらい用語がある。



国や東電の人にはもっと教育現場に入ってもらい、若い世代と膝をつき合わせた対話を求めたい。

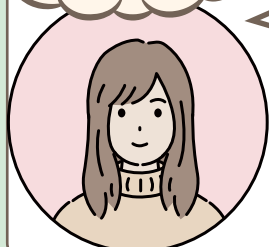


福島はこれまで、復興の課題を少しずつ乗り越えてきた。決断した人の思いや背景について詳しく調べた上で、是非を論じたい。



震災当時、私たちは幼かった。どんなことが起きたのか。自ら詳しく真相に迫ろうとする姿勢。

## 得た教訓



廃炉に関し相手の考えを引き出すための質問の仕方に工夫が必要だ。建前ではなく本音を聞かなければ復興は進まない。



原発事故で生じた問題は福島だけの課題ではない。広く国民の理解を求めていくことが大事で、行政も地元の住民も努力すべき。



世界的にもまれな原発事故の経験を活かしたい。そうしなければ、今後も同じ過ちを繰り返すのではないかな。



福島についてさまざまな情報が駆け巡っている。何が正しいのか。自分で判断するためにも知識を身に付けたい。

## これからの私



一人一人の価値観は違う。意見をぶつけ合うことで、自分一人だけでは浮かばないような提案が導き出せる。



復興のために何が出来るか。今後の高校の学びの中でも自分自身の役割を探究していきたい。



自分なりの情報発信や誤った情報に惑わされないようにしたい。



頭を柔らかくして、たくさん意見を出す。自由な発想で発言する。



臆せずに自分の意見を言う。一人一人の価値観は違うのだから。



SNSを使って福島にしかない魅力を私たちの目線で発信すること。

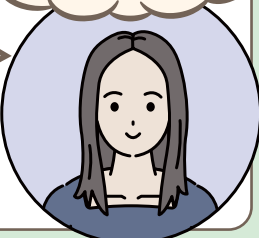


自分事として今から古里の未来を考える。いつか必ずどこかで復興の課題と向き合う日は来る。



答えがある問いばかりを教わってきた。復興という答えのない問いに向き合う。

## 見つけた課題



放射線に関する不安は福島だけの問題はない。今後の時代にも課題が残る。どうすれば不安はなくなるのか。



震災と原発事故の記憶の風化が進む。自分が出れることを探し続ける。



今後も復興に向けた問題を解決する際に「対立」は必ず起きる。互いに批判をし合うのではなく、意見の根拠や理由を示しながら前に進みたい。

## 自分にできることは？





# 自分自身で確かめて

## 福島県浜通り高校生レポート



- 使用済み燃料プール（1～6号機）からの燃料取り出しには十年近くの時間がかかるということ。
- 1号機の水素爆発が事務所棟の窓ガラスを破壊するほどの大きさだったこと。
- ロボットやレントゲン写真などの最新技術を用いて、廃炉に向けて取り組む。



### 講義と視察で学んだこと

- 事故を通して、廃炉にして終わるだけでなく、地域に技術を残すということにも取り組んでいること。
- モニタリングについて、第三者の目（国際原子力機関IAEA）があること。
- 3号機の屋根がかまぼこ型になっている理由（なるべく軽く頑丈に）。
- 地元企業との連携を学んだ（㈱エイブルが排気筒の解体を行ったなど）。

- 富岡町や大熊町などの帰還率はまだまだ低いということ。
- 現場における作業軽減が作業員の被ばくの減少に繋がっているということ→そのために廃炉にあたり原発本体に被せるカバーなどの設計が工夫されていること。
- 原発に入るために厳重な警備がされている。
- 遮水壁の仕組み、重要性。

### 得た教訓



- これからの世代を引き継いでいく私達がこの東日本大震災の被害情報などを伝えていかなければならないと感じた。
- 油断や慢心が後で取り返すのが恐ろしく大変な結果を生むことがある。

- リスクレベルを最低限に抑えるように努めること以上のことはしないということ。
- 正しい情報を正しく知ること。
- 現実と感情を分けて考えることの必要性がある。
- 地域に根ざすことの大切さ。

### 見つけた課題



- 敷地の周りがほとんどタンクであるくらい多かった。
- 福島に対する風評被害の払拭。
- 住民の帰還促進。
- 誤った情報にとらわれず、正しい知識を身につけること。

- 処理水問題について、深刻に思っている人の少なさ（原発問題への関心の低さ）。
- 廃炉作業の進捗は県民含めほとんどの人に伝わっていない。
- 震災から10年が経ち、風化が進んでいるように感じた。

# 自分事として考える

## 処理水の放出に学びを深めて～



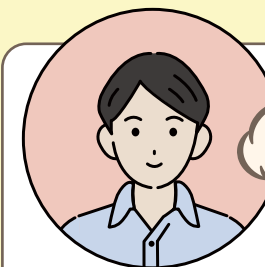
- トリチウムは水素と構造が似ているため、取り除くことが難しい。そのため海洋放出せざるおえない。
- 希釈された処理水は1Fから沖合1キロメートルで放出する。海底トンネルを使用する。
- 希釈するための水は1F沿岸の海水を利用する。
- ミュオン測定により燃料デブリの位置を把握する。



- ALPS処理水の安全性。
- 被曝を避けるため、現場ではできる限り完成されたものを設置するなど時に努めている。
- ALPSでの処理の手順の中にサンプル調査するためのラインがある。
- 1Fのフェーシング加工による雨水流入防止やサブドレンによる地下水汲み上げで汚染水の量を減少させているということ。

- 雨が降るたびに処理や検査が必要な水が増えてしまうため年全体を日割りして毎日140t処理している。
- 核種は62+2種類があり検査の対象によっては1ヶ月かかる。
- 1F内では軽装で歩ける部分が多いことが分かった。
- ALPS処理水の安全性を再確認した。

### これからの私



- 自分自身が正しい知識を持ち、広い世代の人に今の状況を伝える。
- 責任の押し付けあいをするのではなく、全員が考えるべき問題として様々な人達に事実を伝える。
- 高校生の話を蔑ろにされないためにもしっかりと『evidence』を示して話したい。

- 福島の未来を守るために少しでも全国の方が福島そして原発に関して意識を持ってもらうように広める行動をする。
- より発信力のある大きな機関にそういった発信をしてもらうように促すこと。
- 風化をさせないためにも若い世代の人達に知ってもらうことが大切。
- 福島だけの問題であると思われがちであるが、日本全体の問題の一つであると伝えたい。

### 自分にできることは？



- ネット配信も良いと思うがTwitterなどで調べると「政府が高校生に洗脳教育を…」などといったものも見えたので極力そのように思われない様に発表すること。
- 福島第1原発事故直後の現場の奮闘を描いた映画「Fukushima50」など、当時の状況や現状に関心を持ってもらうための工夫も大切だ。



## 遠く離れても古里は心のそばに

東日本大震災の発生当時、私は小学2年生だった。下校中に震度6強の激しい揺れに襲われた。そして、福島第1原発で事故が起き、古里のいわき市から自主的な避難を経験した。しかし、まだ幼く何が起きているのかは分からなかった。

震災が起きなければ、原発が福島県のどこにあり、どのような施設なのかさえ今でも分からなかったと思う。今も避難生活を余儀なくされている双葉郡の住民とは異なり、早い段階で元通りの日常を取り戻すことができた。原発事故の影響と長く向き合うことはなかったため、福島のために貢献したいという意欲も、福島に住み続けたいという気持ちもなかった。高校2年生の時に、広野町のNPO法人ハッピーロードネットが企画した研修事業「ハイスクール・アカデミー福島2019」に参加するまでは。



研修事業に参加したきっかけは、高校の先生の勧めがあったからだ。研修で訪れたイギリスでは、過去に原子炉火災が起きた

原子力関連施設の集積拠点「セラフィールド」を視察し、100年以上にわたる廃炉計画について理解を深めた。帰国後も福島の復興に向けた課題について学んだ。そうした中で、私の気持ちはどんどん変化していった。

福島が今まさに抱えている放射性廃棄物の処分や廃炉の課題を乗り越えるまでの道のりは長く険しい。大学生や高校生ら若い



● 福島県浜通り

世代をはじめ、これから生まれてくる子どもたちも、いつかは復興の重要な課題に向き合わなければならない時が来るのかもしれない。

「福島出身の自分が目を背けてもいいのだろうか」。古里のために何ができるのかを考えた時、防災や災害に関する教育について学び、将来のまちづくりに生かしたいと思った。だから、この分野の研究が進んでいる宮城教育大学に進学した。



2021年夏から始まった今回の研修に、私は高校生の学びをサポートするファシリテーターとして再び参加した。「核のごみの処分問題」がテーマで、核燃料サイクルの要となる青森県六ヶ所村や、核のごみの最終処分候補地に名乗りを上げた北海道寿都町を訪れた。

今回の研修で、特に印象に残った出来事がある。車座の意見交換で「もし浜通りが最終処分候補地に選ばれたら賛成か否か」という質問が投げかけられた際、私は参加

した高校生の意見に驚いた。なぜなら、私以外に反対の声は上がらなかったからだ。原発事故で大きな被害を受けた高校生もいるのに、なぜ冷静でいられるのだろうか。疑問を抱いた。

「まだ自分事と捉えられていないのではないか?」。あるいは「他人の意見に流されてはいないか?」。それとも「大人が正しいと思うような意見を述べているだけなのか?」。高校生の心境について、こんな推察を繰り返すうちに、私はあるテレビ番組を思い出した。



出演者の作家がアナウンサーに対し「明日、あなたの家の庭に核のごみを埋めますよ」と言われたらどう思いますか?」と問いかけた際、アナウンサーはこう答えた。「いや、私は小さい子どもがいますから、ちよつと…」と答えに窮した。質問される前には「この問題は日本が抱えている課題なので、皆さん一人一人が当事者意識をもって考えることが大事です」と立派なことを不特定多数の人に対して発信していたのに、「自分の庭には埋めるな」と言っ

矛盾を感じた。  
しかし、自分はどうか。そのアナウンサーを批判できるのか。同じではないのか。そう自問した。



宮城教育大学

伊藤 結

「原発事故の課題は福島だけではなく、多くの国民が意識してほしい」。常にそう思っているが、自宅の庭に埋められるとなると、やはり嫌だと思っ自分がある。自分自身もまだ客観的な立場にいることを痛感した。

福島の課題を他人事ではなく、私を含め多くの人に自分事として捉えてもらうために何ができるだろうか。福島が抱える課題は可視化されにくいし、廃炉に関しても専門用語が多いため難しい。はつきり言っ取っ付き難いのだ。大学の授業で原発事故をテーマにディスカッションを行った際、周りの学生の多くも「原発事故や福島について知りたいという意欲があっても難しくて分からない」と口をそろえていた。

SDGsに目を向けると、国際社会をターゲットにしており、それが達成されなかった場合に自分たちの身の回りで起こり得ることや、日常に与える影響の光と影についても非常に分かりやすく情報が発信されており、当事者意識を抱く人が多いように感じる。「SDGs」という言葉が急速に広まった背景には、抵抗なく議論したり、考えることができる環境が築かれていたのではないだろうか。福島の課題をより多くの人が知り、考えてもらうためにも、問題を考えるためのハードルを取り除くことはできないだろうか。



そこで必要なのは、私たちのような福島出身の若者が発信することだ。若者は忖度なしで自分の思いや考えを正直に言える。難しい課題であっても若者が声を上げるだけで、ハードルが格段に下がると思う。よりリアルな生の声も伝えることができるだろう。

福島の課題は大人だけでは解決できない。将来の私たちの生活に深く関わってくる。福島を離れてしまっても、福島出身ではないからといって無関係ではない。さまざまな人が当事者意識を持ち、若者から大人まで幅広い年代が手を携え未来の福島を創っていききたい。



座談会

# 遠い未来に私たちが向き合う

「ふくしま浜通り HIGH SCHOOL ACADEMY」歴代参加者座談会

## 「復興とは何か」

5カ年計画で始まった  
研修事業

『ふくしま浜通り  
HIGH SCHOOL ACADEMY』

〈2017～2018年〉  
チェルノブイリ原発  
事故で深刻な被害  
を受けたベラルーシ  
を訪問



〈2019年〉  
1950年代に原子  
炉火災を経験した  
英国を訪問



〈2020年〉  
風評被害で苦しん  
だ熊本県水俣市の  
関係者とオンライ  
ンで対話



〈2021年〉  
国の原子力政策の中核  
を担う青森県六ヶ所村  
と核のごみの最終処分  
問題で揺れる北海道寿  
都町を訪問



料を有効に活用していくことが必要なのではないか。

### 渡辺

現在、国内にある大規模な原発は事故が起これば周辺地域への被害は大きい。なので、安全監視の目が届きやすい小規模な原発を作ってはどうか。

### 【座談会参加者】

太田 颯矢／東北学院大学3年  
酒井 郁澄／秋田大学2年  
清信 早希／東北福祉大学1年  
伊藤 結／宮城教育大学1年  
渡辺 空／ふたば未来学園高3年  
荒川 礼奈／ふたば未来学園高3年  
〈司会〉西本 由美子  
(NPO法人ハッピーロードネット理事長)

### 西本

先の衆院選(2021年10月31日投票)では脱炭素への対応や原発の扱いなどエネルギー政策も争点の一つとなった。政権与党の自民党は脱炭素に向け「不可欠」として将来の原発の活用を見据える。みなさんの考えを伺いたい。

### 荒川

学校の授業で双葉郡をフィールドワークした際、再生可能エネルギーの施設が増えている光景を目の当たりにした。でも、設備設置に適した土地は限られるほか、天候に左右される再生可能エネルギーだけでは日本の電力を賄えないだろう。原発の必要性について前向きに考えなければなら

### 清信

少し前までは私たちをこれほどまでに苦しめた原発の再稼働に絶対反対の立場だった。でも、エネルギー事情について学びを深めるうちに原発に頼らざるを得ない状況も知った。

### 渡辺

大きな事故を経験し国、東電ともに二度と繰り返さないという意識は間違いなく高まっている。思っていただけに、テロ対策の不備などの問題は残念だった。現場では緊張感を持ち続けてほしい。

### 伊藤

どんな発電設備でも「100%安全に運営できる」と言い切れる施設はないと思う。緊急事態が発生した際、周辺地域に影響が及ばないようどう対処できるのか、日ごろから確認し訓練を重ねることが必要だ。

### 荒川

確かに、日本は地震大国でいつまた大きな揺れに襲われるのか誰にも分からない。「絶対に安全」という意識は捨てて備えを万全にしてほしい。

### 酒井

福島第1原発では津波で非常用電源を失ったために事故が



さかい・かずみ 南相馬市出身。2018年のベラルーシ研修事業に参加





おおた・そうや 相馬市出身。2017年のベラルーシ研修事業に参加

起きた。テロ対策や地震計の問題についても真摯に反省し、そして過ちを克服してほしい。

**太田** 私が2017年に研修でベラルーシを訪れた時は美しく静かな国だと思ったが、その後、ベラルーシ当局が政権批判派を拘束するなどのニュースが世界を駆け巡りとても驚いた。日本は世界で最も平和な国と言われるが、今後海外の情勢でどんな脅威にさらされるか分からない。万一の例えだが、ピンポイントで日本の原発を爆撃できる技術に対しても対処できる方法をしつかりと確立してほしい。

**西本** 震災と原発事故から10年と9カ月以上が過ぎた今、国や東電、メディアの被災地への向き合い方について率直な思いを。

**清信** 研修で国や東電の人と意見を交わしたが、エネルギー政策の話題一つを取っても自分たちに都合の良いことしか話していなかった印象が強い。質問とかみ合わない答えも多く、「僕の質問の仕方が間違っていたのかな？」と自



わたなべ・そら いわき市出身。2021年の北海道寿都町、青森県六ヶ所村研修事業に参加

信を失ってしまった高校生もいた。そんなことはないのに。誠実に向き合ってほしい。

**酒井** 確かに、過ちなど負の部分を隠そうとしていた感じがする。それこそが教訓として将来に生かすために私たちの世代が知りたいことなのに。真実を濁すこと、そして、都合の悪いことを隠そうとする姿勢は大人として格好悪いなと思う。

**渡辺** 私も同じ印象を受けた。過去の功績のアピールが目立った。これからの将来を考える上で大切なことだからこそ質問しているの

**伊藤** 国、東電と住民の距離は遠い。講義を受けた時も「上から目線」と感じてしまう場面があった。国や東電の人は一方的な説明ではなく、学校を訪れ生徒と膝をつき合

わせて対話する機会を増やすなど、距離を縮める努力をしてほしい。

**荒川** メディアの情報発信の在り方も課題だ。福島第1原発を視察した際、東電の人は「廃炉は進んでいるのに悪い部分ばかり報じられる」と嘆いていた。構内では多くのエリアで防護服を着用しなくても歩けるようになったのも事実だ。廃炉が進んでいる状況も含め、ありのままを伝えてほしい。

**西本** 事故を起こしていない正常な原発でも廃炉まで30年程度を要する。一方、東電は福島第1原発の廃炉完了の時期を30年後の2051年とする目標を変えていない。実現は可能だと思うか。

**太田** あと30年で廃炉を達成できるとは到底思えない。廃炉の私たち若い世代は向き合い続けていく。本音を言ってもらわないと、



● 書道でベラルーシの子どもたちと交流する高校生

古里の将来像が描けない。

**清信** まず最難関とされる燃料デブリの技術確立にどれだけの時間がかかるのかが分からない。希望的観測ではなく現実路線に基づいて、廃炉に向けた各作業に要する時間がどれくらいなのかを示してほしい。

**酒井** でも、掲げた目標を必ず実現するという姿勢を貫き通すことも大事だと思う。それを信じて復興へ歩みを進めている住民もいるのだから。

**渡辺** 住民は早期の廃炉完了を望むが、見方を変えれば廃炉までの時間が長くなるほど地元にとっては仕事や雇用が生まれると言えるのではないか。

**伊藤** その通りだと思う。デブリの取り出し技術を確立できれば世界に誇れるし、各国から研究者が集まる。早く廃炉を終わらせることに、私はそれほど固執しない。地域経済の振興に貢献しながら、安全で確実に終わらせることが何よりも重要だ。

**西本** 帰還困難区域を除く生活圏の空間放射線量は毎時0.1マイクロシーベルトを切る水準だが、いまだに県内外の住民の中には不安を抱く人もいる。どんな取り組みをすれば被災地に対するネガティブなイメージを払拭できるのだろうか。





あらかわ・れな 広野町出身。2020年の熊本県水俣市関係者とのオンライン研修に参加

**清信** 被災地に対し不安を抱く多くの人が実際に現状を見るのが重要だ。私も国道6号の清掃活動や防災について考えるサミットに参加を続ける中で、被災地が日常生活を取り戻しつつある姿を身近にした。体験型学習を積極的に

放射線量は間違いなく下がった。子どもたちがガラスバッジを身に付ければ恐らく安全な数値が示されるだろう。そんな大勢の子どもたちのガラスバッジのデータを広く発信すれば被災地の放射線量が安全だと裏付ける強い根拠となる。

**太田** 原発事故から10年が過ぎた今、あちこちで除染が進み、放

**酒井** 幼いころはガラスバッジ（個人線量計）の普及や甲状腺検査が積極的に行われていたのを覚えているが、今はそうでもない。安全な環境になったことが背景にあるのだろうが、違和感も感じる。ベラルーシでは事故から30年が過ぎても住民を対象に定期的な検査が行われていた。住民一人一人の安心の尺度は違うので、希望する人にはガラスバッジを配布してほしい。



きよのぶ・さき 相馬市出身。国道6号清掃活動などに継続参加

行い、多くの人に足を運んでほしい。

**西本** 処理水を海洋放出について賛否が分かれている。みなさんの考えは。

**清信** 政府が海洋放出の方針を決定したと知った時には正直、『何を考えてるの？』と憤った。その後、政府の担当者から講義を受ける機会があった。疑問について質問を重ねる中で、放出の際は基準をきちんとクリアし安全なのだと思う。

**荒川** 処理水を保管するタンクが増え続ける姿こそが、国民にとって「復興はしていないんじゃないの？」という印象を与えかねないと思う。



● 処理水の保管タンクが並ぶ福島第1原子力発電所

**伊藤** 私も海洋放出はやむを得ないという立場だ。処理水は今後も増え続ける。保管タンクが姿を消していけば復興が進んでいる証にもなる。

**酒井** 人体や環境に危険を及ぼす水が流れる訳ではない。私も海洋放出はやむなし、という立場だ。国や東電の人はそもそも住民との距離が遠いので、例えば放出について理解を示す企業が自分たちの言葉で社員など周囲に安全だと伝



● 東京電力廃炉資料館で廃炉の現状に理解を深めた

**太田** 核のごみの最終処分場の選定に向けた調査が行われている北海道寿都町を訪れた際、町長は「反対する人に対し安全性を示す根拠を伝えても納得しない」と悩んでいた。私も保管タンクを設置する場所がなくなりつつある中、海洋放出は仕方がないと思う。反対する人の意見も大事だが、ただ単に反対するのではなく対案を出すべきだ。

**西本** 海洋放出に伴い風評被害の拡大を心配する声が上がっている。放出を容認する人と、反対する人の間に深まる溝を埋めるためには何が必要か。

**伊藤** 事故前もトリチウムを含む水が放出され、海外の原発でも福島第1原発の海洋放出基準をはるかに超える濃度の水が流されている。そうした事実を粘り強く説明していくことが必要だ。

**清信** でも、そもそも風評被害は完全には払拭できないと思う。例えば、ある芸能人について、自分とは格好いいなと思って、魅力を感じないという人もいる。一人の感性は違う。福島県産品の購入に反対する人の声に捕らわれすぎてしまうと復興は前に進まない。





● 特別に福島第1の化学分析棟内を見学して理解を深めた



いとう・ゆい いわき市出身。2019年の英国研修事業に参加

## 酒井

現時点で風評がどれほどあるのかが疑問だ。反対する一部の人の発信力が、気にしない人の声を上回っているようにも思える。そうした視点で風評再燃の問題を考えると、仮に99人が放出に賛成で、1人が反対したとしても商売は成り立つ。県産品を応援してくれる人に対し、さらに安全性などを徹底して伝えた方がいい。

## 渡辺

でも、反対する人に安全だと発信し続けることは諦めてほしくない。まだ起きるかどうかも分からない風評をメディアが煽っているような印象もある。それが風評を呼んでしまう問題なのではないか。

## 太田

結局、風評被害をなくするためには時間の経過を待つしかないのではないかとも思ってしまう。ただ、ベラルーシでは放射線に関して学校で学んだ子どもたちが親やおじいちゃん、おばあちゃんに伝えることで知識が広まっていた。日本とは真逆の知識普及の構図でとても参考になった。

## 荒川

確かに、何のしがらみもない若い世代がトリチウムの性質について学んで自身が安全だと納得すれば、発表する場を設けて友人に伝えたり、家庭で両親など身近な人と話し合っていくことも理解を深めていく有効な手段だと思う。

## 西本

福島第1原発の廃炉後の姿はまだ誰も描けていない。どうあるべきか。

## 酒井

二度と繰り返してはならない負の遺産として、もちろん安全性は確保した上で建物を残すべきだ。世界中から見学者が訪れ、地域の活性化にもつながると思う。

## 渡辺

広島県には原爆ドームが残っている。悲惨な経験から目を背けず、教訓を後世に伝えていくという強い意志を感じる。

## 伊藤

確かに、残すという発想は悪くない。でも、建物が残ると廃炉が「終わった」という実感が薄れてしまうのではないか。

## 清信

建物を残したとしても維持費はどうするの？

## 酒井

そこは考えなければならぬが、維持費よりも更地にしたら悲惨な事故が起きた現場を直接目にする機会を失ってしまう。それこそが大きな損失なのではないか。

## 荒川

私も更地にした方がいいと思う。建物を見る度に原発周辺の人は辛い気持ちになると思う。友人は「マインクラフト（ブロックで建物を作るゲームソフト）」を使い、双葉郡のかつての街並みを再現に挑戦している。原発の建物そのものを残さなくても、そうした手法も参考になるのではないか。



● 福島第1の新事務所本館内で講義を受け、原発の現状を学んだ

## 西本

「18歳選挙権」が適用され、若い世代はエネルギー政策の行方を含め政治に一石を投じることができる権利を得た。ただ、最近の衆院選でも18歳と、20代前半の投票率は20%台と低い。どうすれば若者の投票率を上げることができるのだろうか。

## 太田

私は酒井さんの意見に賛成だ。事故を忘れないためにも遺構のような形で残すという視点は大事だ。でも「姿を消してほしい」と願う地域住民の気持ちもよく分かる。どんな在り方が望ましいのか、若い世代がしっかりと話し合いを重ねていくしかない。



● ベラルーシの学生と共に未来の在り方を考えた



**太田** 自分の一票は全体の何万分の一、あるいは何十万分の一の価値しかないのかもしれないが、若い世代の未来や日本全体に大きな変化を与える一票になるという認識はある。ただ、そんな偉そうなことを言いながらも、自分は先の衆院選で投票に行かなかった。ふがない。

**伊藤** でも気持ちは分かる。私は住民票が地元であり、授業で忙しかったこともあって2020年10月の衆院選では投票に行けなかった。同じ状況の学生は多いと思う。スマホで一票を投じることができる仕組みがあれば投票率は劇的に上がると確信している。デジタル技術が発展した今、簡単に実現できると思う。国は若者に投票を呼び掛けているが、そうした環境を整備しないのは若い世代の投票率が上がると困る政党や政治家がいるのではないかと勘繰ってしまう。

**荒川** 衆院選の時点で私に選挙権はなかったが、投票に行った友人に感想を聞くと「誰を選べば良いか分からないから適当に入れた」と話していた。各候補者の政策もよく分からないし、そもそもまだ若い世代の政治への関心は薄い。行政にも学校側にも関心を高めるた



めの取り組みが必要だと思う。

**清信** 私の友達にも「親が選んだ人と同じ人に投票する」という友達があった。親に影響されているだけで、どんな政策を掲げているのかも分からない。それなのに、国政で何か問題が起これば文句が口をつく。それは正しくはない。自分から政治を知ろうという意識を持ち、積極的に関わっていききたい。

**酒井** 若い世代の投票率が上がらなければ、政治家は投票率の高い60〜70代の人向けの政策ばかりを重視してしまうのではないかとSNSなどで影響力があり、なおかつ心から選挙は大事だという強い思いを持つインフルエンサーを今後も積極的に活用し「投票することって格好いい」と若者の心に響くようなアピールを続けていくべきだ。

**西本** 今後ますます震災と原発

事故の記憶の風化は進んでいくと心配している。みなさんにできることは何か。

**太田** まずは多くの人に関心を持つてほしい。そのために私たち自身が国や東電、メディアが発信する情報に踊らされず、自ら真偽を調べて納得する必要がある。そして、まずは身近な人に伝えていきたい。

**渡辺** その通りだと思う。自分が正しいことだと納得できるまで復興の課題と向き合い続ける住民の話を直接聞き、自分の言葉で発信していくことが大切だ。

**酒井** 私たちは世の中に対し影響力のある有名人ではないが、関心を持ってもらえるよう一人でも多くの友達に伝えていきたい。行動することが大事だ。



● 100年計画で廃炉に挑む現場を学ぶ高校生



**清信** 私は教員を目指している。廃炉完了までの道のりは長く、もしかしたら私たちのさらに次の世代も関わっていかねければならないのかもしれない。将来、児童が震災や原発事故からの復興の在り方に疑問を抱いた時、しっかりと正しいことを説明できるように知識を身に付けたい。

**荒川** 私も小学校の教員を目指していて、若い人に復興の問題について身近に考えてもらえるような努力を続けたい。

**伊藤** 今からでも教育現場で震災や原発事故に関する知識を教えていくことも大切ではないか。小学生の時に防災に関する学びの場はあったが、原子力災害についてはほとんど触れられていなかったように思う。風化を防ぐためにすぐに取り組まなければならないことは多いと感じている。



# 原子力災害を知って

# 学んだ5年間の軌跡

自分の目で確かめて初めて分かる世界がある。

2017年に始まった高校生を対象にした研修事業は2021年に最終年を迎えた。学びの旅路の中で、私たちはさまざまな価値観を持つ人たちと出会い、交流し、視野を広げた。

国が違えば復興についての考え方は異なる。国内でも県境を越えれば住民の思いはさまざま。古里に目を向けても帰還する人、新しい土地で生きる人と決意した人もいる。

だからこそ、互いに尊重し、納得できる答えを導き出し、みんなが幸せになれる将来像を描いていきたいと願う。私たちの研修の歴史を写真で振り返る。

## 2019

(訪問先)  
英国  
(ロンドン・セラフィールド)  
青森県六ヶ所村



## 2020

(訪問先)  
福島県双葉郡



## 2021

(訪問先)  
北海道寿都町



## 2017

(訪問先)  
ベラルーシ



## 2018

(訪問先)  
ベラルーシ





# （未来への可能性を 確かに感じた5年間）

編集後記

M E S S A G E



NPO法人ハッピーロードネット  
理事長 西本 由美子

復興という長く険しく、そして未知の領域に挑んでいく未来のリーダーを育てたい。そんな思いで2017年に始めた研修事業「ふくしま浜通り HIGH SCHOOL ACADEMY」は、多くのみなさまのご協力とご支援により5年間という長期にわたる事業計画の全てを終えることができました。心より感謝申し上げます。

高校生たちは「復興のためにできることは何か」と高い志を胸に研修事業に参加してくれました。ただ、毎年のようにテーマを決めて参加する中でお互いに切磋琢磨する姿を間近にしました。講師陣は福島が直面する課題について自分なりの考えを求め、講義のない期間中も数多

くの宿題を課しました。中には、私を含め大人でさえも音を上げそうなほど専門的で難しい設問もありました。

それでも、生徒たちは悩み、もがきながらも知識を蓄え、未来を切り拓くための力を身に付けていきました。一步一步成長していく姿を間近にする度に、この子たちはこれから歩む先に横たわる課題を軽々と飛び越えていってしまうのでは――と、期待に胸が高鳴ったことを覚えています。「不可能なことなんてない」。5年間の研修事業を終えた今、本気でそう思っています。

新型コロナウイルス感染拡大の終息に向けた道筋はいまだに不透明です。私たちも海外や県外で行う予定だった研修事業の変更を余儀なくされました。それでも、学校だけでは学べない何かがあると信じ、この先も機会を見つけては高校生の成長を後押ししていきたいと思っています。

## 私たちが未来を描くためのキーワード

### keyword

#### 1 対話を重ねる

考え方や価値観は一人一人違う。この先、復興の課題について議論する時には賛成の人も反対の人もいる。互いにその理由を説明し、議論し、理解し合いながら復興の姿を少しずつ形作っていきたい。否定し合うことからは何も生まれない。

#### 2 自分事として考える

原発事故を防げなかった大人たちの責任は重いと思う。それでも、廃炉までの道のりは長く険しく、私たち若い世代に深く関わる世代を超えた課題となってしまった。みんなが廃炉の問題点を知り、自分なりの声を上げることがより良い未来を創る力になる。

#### 3 「伝わる」工夫を

「伝える」ことは簡単なようで、実は難しい。情報に接した人がきちんと内容を理解して初めて「伝わった」ことになる。SNSが浸透し、瞬時に世界中に意見を伝える事が出来る世の中になった。年齢など伝える相手の目線に立って情報を発信したい。

#### 4 風化させない

震災と原発事故の記憶と教訓は語り継いでいかなければならない。将来、もしも同じような災害がどこかで起きた時に、きっと誰かの命を救うことにつながると信じて。私たち若い世代は震災当時は幼かっただけに、「あの日」について学びを深めたい。

#### 5 挑戦する

福島第1原発の廃炉は未知の領域への挑戦だ。それだけに、福島から世界に誇れるような新しい技術が生まれる可能性はある。私たちがこれから歩む人生でも必ず失敗に直面する。でも、立ち上がり、前を向き、新たな何かを生み出す力にしたい。

#### 6 学びの旅に出よう

百聞は一見にしかず。自分の目で見て、確かめることが大切だ。生まれ育った地域の外に出なければ分からないこともある。自分の中の常識が覆る経験をするかもしれない。世界を広げよう。

企画・発行

 特定非営利活動法人ハッピーロードネット  
理事長 西本 由美子

〒979-0407 福島県双葉郡広野町広洋台 2 丁目 1-5  
TEL : 0240-23-6172 FAX : 0240-23-6171  
E-mail : office@happyroad.net

制作 STAFF

辺見 祐介 櫻井 隆一 日比 賢二



## 原子力災害を「シル・マナブ」に参加してくれた仲間たち

2017年



●ベラルーシ研修（ホイニキ記念碑にて）

2018年



●ベラルーシ研修（ハティニ村跡にて）

2019年



●英国研修（セラフィールド社にて）

2020年



●福島県双葉郡研修（廃炉資料館にて）

2021年



●最終年となる研修（北海道寿都町にて）

## 原子力災害を「シル・マナブ」を応援してくださった仲間たち

(五十音順・敬称略)

一般社団法人日本電気協会新聞部(電気新聞)  
ウエストレイクアカデミー高校  
お茶農家・松本和也(熊本県水俣市)  
大熊町役場  
株式会社アイ・ジーティー  
株式会社アトックス  
株式会社安藤・間(福島原発対策室)  
株式会社FRI  
株式会社エイブル  
株式会社エスエイティ  
株式会社大和田測量設計  
株式会社加地和組  
株式会社鈴木酒造店  
株式会社関電工  
株式会社タイズスタイル  
株式会社タイヘイドライバースクール  
株式会社田中商店(水俣工コタウン)  
株式会社千代田テクノル  
株式会社東京エネシス  
株式会社報徳バス  
鹿島建設株式会社  
ゲームストリーム社  
経産省「地域の伝統・魅力等発信事業」  
熊本県環境センター

公益社団法人福島相双復興推進機構  
国立ゴメリ大学  
国立原子力大学  
ゴメリ州執行委員会  
在ベラルーシ日本国大使館  
在英領人会ロンドンしゃくなげ会  
在英日本大使館  
小児リハビリ保護センター「ブラレスカ」  
常磐共同ガス株式会社  
清水建設株式会社  
清水建設株式会社(1F災害復旧工事事務所)  
清水建設株式会社(建築)  
Jヴィレッジ  
ストレイチエボ中等学校  
セラフィールド  
前田JVグループ  
前田建設工業株式会社  
大案院(楡葉町)  
大成建設株式会社(土木)  
大成建設株式会社(建築)  
たまきはる福島基金  
東亜建設工業株式会社(東電福島統括事務所)  
東京電力ホールディングス株式会社  
東北整備局磐城国道事務所

堂島酒醸造所(英国)  
中島 勝利  
日本原燃株式会社  
NUMO京都交流センター  
浜通り交通株式会社  
東日本高速道路株式会社  
広野昇龍太鼓(広野町)  
復興庁  
復興庁「心の復興事業」  
福島県青森県六ヶ所村役場  
福島県教育委員会  
福島県立桜が丘高等学校  
ファッションデザイナー コシノ ミチコ(英国)  
双葉町  
ベラルーシ国立大学  
ホイニキ地区執行委員会  
ホイニキ地区博物館  
ホテルハタゴイン福島広野  
放射線学研究所  
北海道寿都町役場  
松木幸蔵(熊本県水俣市役所)  
漁師・杉本肇(熊本県水俣市)  
UCL大学(大沼教授)  
有限会社とまとランドいわき  
横山建設株式会社

主 催 特定非営利活動法人ハッピーロードネット

事 務 局 特定非営利活動法人ハッピーロードネット

〒979-0407 福島県双葉郡広野町広洋台2丁目1-5  
TEL : 0240-23-6172 E-mail : office@happyroad.net